

すくすく泉事業採択・評価委員会 議事要録

○日 時	平成 29 年 6 月 29 日 (木)	午後 6 時 35 分～ 7 時 30 分
○場 所	武蔵野芸能劇場	小ホール
○出席委員	榎田委員長、吉田副委員長、藤野委員、鶴川委員、大杉委員	
○事務局	子ども政策課長、子ども育成課長	他

1 開会

事務局より資料確認

2 議事

(1) 平成28年度事業実績について

※運営団体NPO法人いずみの会が入場

<平成28年度事業実績について説明>

【いずみの会】

まず、委員の事前質問一覧については、回答を当日資料として配付しているが、内容は事業報告の中で合わせて回答したい。

28年度事業報告については、小規模保育、ひろば、一時預かりのほか、多世代交流も行った。この7月で開設3年となる施設だが、利用者の評判はよく、地域の子育て支援になくはない施設になったと感じている。

28年度の大きな点として、会計事務所に事務処理を依頼し、事務スタッフを採用したことで、管理部門が充実したことが挙げられる。また、小規模保育で常勤のスタッフを採用し、保育体制が充実した。昨秋から実施した「こらぼのコミセン親子ひろば」については月2回の出張事業だが、とても好評で、ひろば事業が広がっていることを感じる。また、地域のシニアの方による昔あそびカフェや、お婆ちゃんたちによる絵本の読み聞かせ、イベント時の高齢者の招待などで、多世代交流は定着している。

以前の評価委員会で助言もいただいたが、28年度は研修に力を入れてやってきた。各ポジションでのミーティングや、コアミーティングにおいて、スタッフ間で意思疎通を図り、内外の研修の情報も共有しており、研修への参加も増えている。

すくすく泉の事業への理解は進んでおり、施設も、来所する方の気持ちに寄り添って運営できていると感じている。

全体としては以上のとおりだが、次に各事業について報告する。

ひろば事業については、ひろば、一時預かりとも、28年度は利用者数が増えた。ひろばは年間延べ1万人を超える利用があり、一時預かりの利用者も2千人に迫った。混雑する日もあったが、公園の利用や、スタッフの気配り、努力により、特筆するような事故やトラブル、クレームがなかったことは良かったと感じている。初年度にできなかったデッキ

の屋根や日除けの設置、ごみ置き場の整備、イベント用の音響設備の設置など、環境も整えることができたので、これを今後活用していきたい。

ひろばでは親同士が助け合い、笑い合う、という姿が多く見られるようになった。これは、スタッフ対お客様という形にしない、子どもの見守りをその母親だけにさせない、という点を念頭に置いて対応してきたことで、人と人とをつなぐひろばという形がようやく見えてきたのだと感じている。また、利用者の声を反映させた講座やイベントなども充実させ、好評だった。

一時預かりについては、予約の増加があったので、スタッフを増員した。間もなく開設3年になるが、上手に利用されてきていると感じる。自分が辛いというだけで子どもを預けていいのか、という利用者の心のハードルも見えていたが、ひろばの中で親同士やスタッフと話をし、預かりの様子を実際に見ることで、そのハードルが下がってきたと感じる。また、そこから発展して、少しの間ならと、お互いに預け合う姿も見られるようになった。昨日も、一人の子どもが初めて長く預かってもらうということで、みんなでその成長を喜び合うという場面があった。とても優しいひろばになっていることを実感した。

ひろば、一時預かりとも、スタッフ研修の充実を図った。それぞれにサブリーダーを置き、コアスタッフ会議として、軸を決める役割をする会議を開始した。毎月の自主研修、テーマに合わせて講師を呼んでの研修などで、スタッフの意識、意欲の向上し、新たにひろば、一時預かりそれぞれ2名、計4名の保育士資格の取得があった。

10月より、月に2回の「こらぼのコミセン親子ひろば」が始まったが、場所の設定や時間割、おもちゃの内容など、毎回ボランティアと振り返りながら、心地よいひろばを目指して運営している。時々ミニ講座などを入れながら、変化を付けて実施している。

次に、小規模保育についてだが、大きな事故やトラブルもなく、小規模保育事業（B型）としての1年目を終えることができた。

特筆すべきことが4点あると考えており、まず1点目として、常勤の保育士を雇用したことがある。1月から1日6時間、週5日の常勤保育士が入って、軸がしっかりしてきた。

2点目として、保護者の企画したイベントが組まれた。一つはコンサート、もう一つは遠足だが、参加型で場を作っていくという流れができたことは嬉しかった。

3点目に、7人の卒園生を自信を持って送り出すことができたのは大きかった。開所以来ずっとここで育てて卒園していった子どもたちで、保護者からも感謝していただけた。

4点目としては、研修に力を入れたことがある。日常的に子どもへの関わりや自分たちの動きを反省したり、考え直したりするための10分間ミーティングを設けたことで、日々のちょっとした疑問や問題点を解決することができた。

実績報告ではないが、今年度力を入れていることとして、保護者同士が子育てを通じてつながって、人の輪の中で子どもみんなを育てるといい雰囲気を作りたいと考えている。また、子どもの年齢により発達の違いがある中で、それぞれの子どもの発達の保障をしていきたい。それから、研修として、本日も連携園の「まちの保育園 吉祥寺」と合同自主研修を行い、お互いの保育室の環境構成を中心に録画した5分間のビデオを持ち寄って、担任同士で話し合いをしたが、こうした日常の関わり等の研修に力を入れていきたいと考えている。新しい保育指針が平成30年度から始まるので、その対応としての研修も実施す

るとともに、アレルギー対応など、必要なシステム作りや周知に力を入れていきたい。また、保育資格者の増員や常勤の採用にも力を入れていく。

<質疑応答>

以下の質疑応答が行われた。

【委員】

一時預かりについては、要望に応えられないほどの申し込みがあるということだが、内容については、こういった理由での利用が多いか。

【いずみの会】

具体的な理由は聞かないので細かいことは分からないが、保護者からの声としては、きょうだいの用事、通院が多い。あとは買い物や、美容院、自分の通院など、日常の細かいことで利用されることが増えている。仕事が理由で、という人もいるが、定期的にというよりは、空いている時に使えるサービスなので、毎日の仕事で使う人は少ない。

【委員】

小規模保育事業で、7人の卒園生がいたということだが、地域の子どものなにかということと、卒園後もその親子と地域との関わりや支援を行う機会などについて、何か構想があるのか、ということを知りたい。

【いずみの会】

卒園生の地域については、近隣もいるが、吉祥寺東町や吉祥寺南町といった子どももいる。最初は武蔵境から来ていて、途中で近所の園に転園できた、という子もいた。卒園後の親子についてだが、NPOの会員になってくれた方も一人いる。また、同窓会のような形でイベントに来てくれる方や、一時預かりを使う方もいる。構想としては、ずっとつながり続けてもらって、ここがふるさとというか、時々帰ってきて子どもの成長をみんなで喜んだり、困ったときに相談に来たり、ということが出来る場になれば良いと考えている。

【副委員長】

一時預かりについて、一人あたりの平均の利用時間と、予約が取り辛いということだが、一番混んでいる時間を教えてもらいたい。

【いずみの会】

理由が様々なのと、統計も取っていないので正確には分からないが、1回3～4時間という利用が一番多いように感じる。時間帯としては、10時から午後2時あたりが一番多い気がする。早朝、夜間は、いても1人か2人で、宿泊については、最近の利用がない。

【副委員長】

宿泊はないということだが、早朝や夜間のスタッフ確保について、何か対策をしているか。

【いずみの会】

子育てに少し余裕の出してきた様々な年代のスタッフがおり、子どもの年齢によって、たとえば高齢のスタッフは夜や早朝に強いとか、昼間は学校に子どもが行っているスタッフが強いとか、そういった特性を活かして色々な時間帯をカバーしている。

【副委員長】

今後は夜間、早朝の体制を手厚くしていくという考えか。

【いずみの会】

今は利用が少ないので対応できているが、利用が増えてくれば対応を考えなければならない。土曜日は少し手薄で、今人材を探している。基本的に人づての紹介でスタッフを探している。これまでは、早朝、夜間で、子どもが1名のときでも、スタッフを2名付けなければいかなかったが、小規模保育室に人がいれば、一時預かりスタッフは1名で良いことになったので、施設全体を見ながら人数を調整できるようになった。

【委員】

収支計算書について、人件費の予算に対して、小規模保育での実績が百万円ほど少ないが、必要な人材が雇えないということがあったのか。ひろばについても実績が少ない。このあたりは、どのようにカバーしたのか。

【いずみの会】

小規模保育については、パートで雇われていたスタッフが、1月から6時間の常勤に移行したので、人は変わっていないが、働き方が変わり、時間も増えたので、スタッフの人数はきちんと配置されている。

【委員】

部門別実績活動計算書の、管理部門配賦額について、小規模保育事業と、一時預かり事業、ひろば事業で、2：1：1で配分しているが、これはどのような根拠によるものか。

【いずみの会】

一時預かりとひろばを合わせてひろば事業なので、小規模保育事業とひろば事業で半分ずつにして、ひろば事業はさらにそれを一時預かりとひろばで、半分に分けた。

【委員】

間接費なので、人事の管理や会計の事務かと思うが、その場合、たとえば職員の人数や、人件費、あるいは収入の金額で分けるのが一般的だ。そうすると小規模保育の配分の方が多くなるのかと思う。その分事業の余剰金が増えてしまうということはあるかもしれないが、実際に掛かっている割合で考えた方が実態に近くなるので、検討してもらいたい。

【委員】

地域との関わりでシルバーのカフェがあり、また、近隣に小学校があるので、小学生も来ているかと思うが、何か交流の企画や目標などはあるか。また、講師を呼んでの講習については、報告されていたもの以外にも何かあるか。

【いずみの会】

小学生は公園に遊びに来るので、そこで日常的に関わっているのと、先日は、小学校のまち探検の授業で、生徒が施設に来たこともあった。また、施設の遊具で、大きい子向けのものは、小学生が放課後に借りに来ることもある。

【委員】

まち探検というのは、施設見学になるのか。

【いずみの会】

生徒が施設を見学して、準備してきた質問をスタッフに対して聞いていく。

講習についてだが、アドバイザーに入っている講師が月に1回、現場を視察して、継続

的にスタッフの相談に乗ってくれており、積み重ねができています。ほかにわらべうたや、絵本の研修、来年度に向けたアレルギー研修も実施している。また、おんぶ講習も実施した。外部研修としても、様々なものを聞ききて、スタッフミーティングでシェアしている。

【委員】

先ほどの、他の園との合同研修というものも、昨年度実施したのか。

【いずみの会】

それは29年度からになる。

【委員】

研修計画はどのようになっているのか。また、この人はどの研修を受けたとか、この人にはこの研修が必要だとか、そのあたりはどのように管理しているか。

【いずみの会】

ひろばの方では、毎月自主研修を兼ねたミーティングをしているので、その場で出た意見に応じて講師を探している。ひろばの研修にも保育スタッフも参加できる。誰がどの研修を受けたのか、というのは研修係が記録を取っているが、誰にどの研修が必要か、というところまではまだ行っていない。

保育の方は、子育て経験のあるスタッフと、保育の経験があるスタッフの間で力量に差がある。前者から学ぶ点もある一方、前者の方をどのように育てるか、という点が課題になっている。昨年度は、こういうことをスタッフに伝えたい、という観点で研修を組んでいたが、それでは参加意欲が薄く、全体の力の底上げができないので、逆にスタッフから、学びたいこと、困っていること等を出してもらって、そこからどのような研修が良いかを研修チームが考えて計画を立てている。

【委員長】

ここで質疑を終了します。いずみの会の方々はここでご退場ください。

※NPO法人いずみの会が退場

<審議>

【委員長】

それではいずみの会の説明、質疑等を踏まえて審議に入りたい。28年度の補助事業が適切に実施されたかどうか、必要な意見を付けるべきかという観点から意見をまとめたい。まず、事業が適切に実施されたかどうかという点は、いかがか。

【委員】

まだ待機児童の状況からして、近くの方が選んで保育園に入れる状況ではないので、色々な地域の子どもが入っているようだが、今後、地域に根付いた保育園、子どもが大きくなってふるさとのような場所になれば良いと思う。無事に卒園生も出たということで、極めて順調に進んでいるのではないかと思う。

【委員】

事業としては順調なようだが、収支の方を見ていると、必要な常勤のスタッフが雇えておらず、事業費が余っている状況なので、難しいかもしれないが、保育士の確保を進めて

もらいたい。

【副委員長】

収支差額が 91 万円というのは、前年も百万円繰り越しているが、これはどう考えれば良
いか。

【委員】

本来はゼロであるべきだが、前年の繰越が百万円あるので、当期のみで見るとほぼゼロ
と見ていい。間接費の配賦は問題だが、繰越については市も認めているので問題はない。
もう少し使っても良いとは思いますが。

【委員】

保育で一人常勤になったということだったが、人は増えてないようなので、もう少し増
えても良いと思う。

【委員長】

先ほど研修の話もあったが、初期の段階が過ぎると、人材育成あたりを視野に入れる必
要があるのではないかと思うが、いかがか。

【委員】

小規模保育は、3歳で卒園して連携園に入ることなので、短い期間だが、この小
さい時期に必要なことがあるのではないか。今は安全面など、一般的な研修を行っている
のだと思うが、何が必要なのかということを考えて、今年はここに力を入れる、など絞っ
ても良いと思う。

【委員】

確かに、少しその場その場で研修を考えているところはあるように感じた。警察で防犯
の研修をしたら課題が多く出た、という記載もあったので、そういう基本的な点はまず必
要だと思うが。

【委員長】

そういった基本的な研修と、各分野の細かい研修、という風に、研修計画を立てる必要
があると感じる。

では、28年度の事業については適切に実施されていたと考えられるが、何か意見を付け
るか。今出た意見は、スタッフの確保と、計画的な研修の実施という点だが、いかがか。

【委員】

付けた方が良いのではないか。

【委員】

その方が明確に伝わるのではないかと思う。

【委員長】

それでは、平成 28 年度においては、事業計画に基づき事業が適切に実施されていた。引
き続き 29 年度においても、保育スタッフの確保と、計画的な研修を進め、着実に事業を実
施していただきたい、という意見を付けることとしたい。有資格者の、という点を入れた
方が良いか。

【委員】

入れた方が良いのではないか。

【委員長】

では、「平成 28 年度においては、事業計画に基づき事業が適切に実施されていた。引き続き 29 年度においても、有資格者の保育スタッフの確保と、計画的な研修を進め、着実に事業を実施していただきたい。」という意見を付けることとしたい。

3 閉会